

Google「Gemini 3.7 Flash」徹底調査レポート

事実確認・技術評価・知財実務への示唆

2026 年 8 月 14 日

Claude Opus 5

1. 要旨

- 発表は実在する。Google は 2026 年 8 月 13 日（米国太平洋時間）、公式ブログと Gemini API で「Gemini 3.7 Flash」（API モデル文字列 gemini-3.7-flash）を GA（一般提供）として公開した^{1,2}。提示情報にあった「8 月 13 日（米国時間）」「主力モデル」「コーディング・エージェント強化」は、いずれも一次情報と一致する。日本語版公式ブログは 8 月 14 日公開のため、日本国内の報道は「8 月 14 日公開」と表記する場合がある⁵。
- 本モデルは前世代 Gemini 3.6 Flash（2026 年 7 月 21 日 GA）のわずか約 3 週間後に投入された改良版であり、新規の基盤モデルではない。モデルカードは「Gemini 3.7 Flash は Gemini 3.6 Flash をベースとする」と明記している³。コンテキスト 100 万トークン、出力最大 64K トークン、思考レベル 3 段階、知識カットオフ 2026 年 3 月^{3,4}。導入価格は入力 0.75 ドル／出力 3.75 ドル（100 万トークンあたり）で、前世代の当初価格の半額である^{1,7}。
- コーディング・エージェント系ベンチマークで前世代を大きく上回るが、フロンティア最上位ではない「価値ティア」に位置づけられる。独立評価（Artificial Analysis）では Intelligence Index 56（high 設定）で、GPT-5.6 Terra（57）や Muse Spark 1.2（57）にわずかに及ばない一方、出力速度は約 3 倍である⁶。知財実務では特許調査・IP ランドスケープ・明細書ドラフト等の大量・反復処理のコスト効率化に直結する一方、AI エージェントの自律性向上は「野良 AI エージェント」ガバナンスと AI 生成物の権利帰属という論点を先鋭化させる。

2. 事実確認

2.1 一次情報で確認できた事実

- (1) 公式ブログ：blog.google に "Introducing Gemini 3.7 Flash"（著者：Tulsee Doshi, Senior Director, Product Management、2026 年 8 月 13 日付）が存在し、「コーディングとエージェントのための、これまでで最も知的な作業用モデル」と位置づけている¹。

- (2) Gemini API 公式ドキュメント：リリースノートに「August 13, 2026 — Gemini 3.7 Flash generally available (GA)」の記載があり、モデル文字列 `gemini-3.7-flash` が明記されている²。
- (3) モデルカード：deepmind.google にモデルカードが存在し、「Gemini 3.7 Flash is based on Gemini 3.6 Flash」と記載されている³。
- (4) 日本語一次情報：blog.google/intl/ja-jp に日本語版が存在し、ITmedia AI+、ITmedia PC USER、マイナビニュース等が 8 月 14 日に報道している⁵。
- (5) 提供チャネル：Gemini API (AI Studio)、Google Antigravity、Android Studio、Vertex AI／Gemini Enterprise Agent Platform、Gemini Enterprise アプリ。個人向けは Gemini app 内の「Spark」(AI Pro/Ultra 加入者、160 カ国超)^{1,7}。

2.2 提示情報との差異（細部）

- 日付：「8 月 13 日（米国時間）」は正確である。日本語報道の「8 月 14 日」は日本語版ブログ公開日ないし日本時間換算による表記差であり、実質的な齟齬ではない^{1,5}。
- 「主力モデル」の含意：Google の表現は "workhorse model"（作業用の主力モデル）であり、フロンティア最上位（Pro／Ultra 級）ではない。約束されていた上位機「Gemini 3.5 Pro」は本発表時点で未公開である^{1,8}。

3. 技術仕様

以下はモデルカードおよび API ドキュメントに基づく一次情報である^{3,4}。

- コンテキストウィンドウ：入力最大 100 万トークン。出力：最大 64K トークン。
- 入力モダリティ：テキスト、画像、音声、動画（マルチモーダル）。出力：テキストのみ。
- 思考（thinking）機能：thinking_level の 3 段階（low／medium／high）で制御。low は低遅延、medium は既定で多くのタスクに最良、high は最難関の推論・コーディング・エージェント向け。
- ツール使用：Google 検索、コード実行、URL コンテキスト、Computer Use、File Search、関数呼び出し等（3.6 と同一スイート）。
- パラメータ変更：temperature、top_p、top_k は Gemini 3.x 系で非推奨。thinking_budget は文字列 enum の thinking_level に置換された。
- 知識カットオフ：2026 年 3 月。ただし一部ドメインは 2025 年 1 月相当とモデルカードが明記している³。

■ アーキテクチャ・訓練データ：3.7 独自の開示はない。モデルカードはいずれも「3.6 Flash のモデルカードを参照」とし、新パラメータ数・新 MoE 構成・新訓練コーパスは非開示である³。

4. ベンチマーク性能

4.1 Google 公式値

以下はモデルカード掲載の主要値である。競合値は各社の自己申告値を Google が引用したものである^{3,9}。

ベンチマーク	Gemini 3.7 Flash	Gemini 3.6 Flash	首位モデル
FrontierCode 1.1	43.6%	34.4%	3.7 Flash
DeepSWE v1.1	65.3%	48.6%	GPT-5.6 Terra (69.6%)
Code Arena / WebDev Arena (Elo)	1588	1538	3.7 Flash
Terminal-Bench 2.1	85.8%	78.0%	GPT-5.6 Terra (87.4%)
Terminal-Bench 3.0	14.9%	5.4%	GPT-5.6 Terra (20.8%)
AutomationBench	30.4%	17.0%	3.7 Flash
GDP.pdf (複雑文書処理)	34.0%	22.0%	3.7 Flash
Harvey LAB-AA (法務 WF)	90.7%	85.1%	3.7 Flash
HLE-Verified	53.6%	51.2%	3.7 Flash
LVBench (長尺動画理解)	85.4%	84.2%	3.7 Flash
GDM-MRCR v2 (長文脈検索)	97.0%	91.8%	3.7 Flash
OSWorld-2.0 (エージェント)	47.9%	33.8%	GPT-5.6 Terra (50.2%)
GDPval-AA v2 (Elo)	1525	1422	Muse Spark 1.2 (1628)
Agent's Last Exam	26.3%	24.2%	Claude Sonnet 5 (33.3%)

注：SWE-bench Verified、GPQA Diamond、AIME、MMMU、 τ -bench、LiveCodeBench はモデルカードに未掲載であり、Google は今回これらを公式には報告していない³。前世代 Gemini 3 Flash では GPQA Diamond 90.4%、HLE 33.7%、MMMU Pro 81.2%、SWE-bench Verified 78%が公表されていたが、3.7 では公式値がない¹⁹。競合値はいずれも各社自己申告値であり、統一ハーネスによる第三者ベイクオフではない。Claude Sonnet 5 の HLE-Verified 31.0%はコンテンツポリシーによる多

数の質問ブロックの影響を受けている旨、モデルカードが注記している³。

4.2 独立評価 (Artificial Analysis)

- Intelligence Index v4.1.1 : high=56 (前世代 52 から 4 ポイント上昇)、medium=53、low=51。首位の GPT-5.6 Terra (57)、Muse Spark 1.2 (57) にわずかに及ばない。medium 設定の 53 は DeepSeek V4 Pro・GLM-5.2 と同点である^{6,10,11}。
- 改善の主因はエージェント系である (Tau3 Banking+3、Terminal-Bench v2.1+8、GDPval-AA v2 +103 Elo)⁶。
- 速度: 約 340 トークン/秒 (high) で、GPT-5.6 Terra や GLM-5.2 の約 3 倍。平均 Time per Task は 1.7 分で、Intelligence 対 Time per Task のパレートフロンティア上に位置する⁶。
- 独自エージェント評価: AA-AnalystAgent で pass⁵=60% (Claude Opus 5=54%、Fable 5=49% を上回り首位)、AutomationBench-AA=62.7% (首位)、AA-Briefcase=1132 Elo (+169)⁶。

5. 「コーディング強化」「エージェント強化」の具体的内容

公式説明は以下のとおりである¹。

- コーディング: デバッグ・課題解決での「強い改善」、初回コード精度の向上、本番用コード生成の改善。Web 開発では「より少ないプロンプトで機能完備のアプリ/レイアウト」を生成し、スクリーンショット・画像・デザインシステムからの UI 再現性が高い。
- エージェント/開発者体験: 「行き詰まりへの適応、意図の確認、指示忠実性」の向上。「より入念に思考し、複数ステップの計画立案とツール呼び出しに労力を割く」。「規律ある実行により手動監督とリトライが減少」する。
- 手法の開示: 「開発者フィードバックとアルゴリズム面の革新の直接的成果」とのみ説明されている。新規基盤モデルの訓練ではなく、3.6 の「コア推論基盤への改良」とモデルカードは述べており、詳細な訓練手法・アーキテクチャの技術開示はない³。

【分析】技術開示の乏しさは、Flash ティアが研究成果の発表というより製品としての反復改良に軸足を移していることを示唆する。3 か月で 3 世代というリリース頻度⁶は、モデル選定を「特定バージョンへの投資」ではなく「ティアへの投資」として捉えるべきことを意味する。

6. 価格

導入価格は2026年12月31日まで適用され、入力0.75ドル／出力3.75ドル（100万トークンあたり）である。前世代3.6 Flashの当初価格の半額であり、導入価格は3.6 Flashにも同期間適用される。2027年1月1日以降の標準価格は入力1.50ドル／出力7.50ドルとなる。キャッシュ入力トークンは90%割引を維持する^{1,7,14}。

モデル	入力（\$/100万トークン）	出力（\$/100万トークン）
Gemini 3.7 Flash（導入価格）	0.75	3.75
Gemini 3.7 Flash（2027年1月以降）	1.50	7.50
Muse Spark 1.2	1.25	4.25
Claude Sonnet 5	2.00	10.00
GPT-5.6 Terra	2.00	12.00

注：競合価格はArtificial Analysisおよび各社価格ページに基づく^{6,10}。Gemini 3.7 Flashは同世代フロンティア級のなかで最安クラスに位置する¹⁸。

7. 安全性・ガバナンス

モデルカードによれば、最新のFrontier Safety Framework（2026年4月版）に基づき評価が行われている³。

- 判定：いずれの追跡対象能力レベル（TCL）・重要能力レベル（CCL）にも到達していない。
CBRN、サイバー、有害操作、ML R&D・ミスアラインメントの全ドメインで「CCL not reached」とされる。
- CBRN：「合理的な確信をもってCCLを除外できる」とする。ただし専門家レッドチームで「web基準に対する適度な能力上昇」が確認され、一部専門家は有害情報を引き出せたため「アラート閾値には到達」と評価されている。平均スコアが控えめであること、明示的な専門家の誘導が必要なことからCCL閾値未満と判定された。
- サイバー攻撃：「アラート閾値には到達するがCCL自体には未到達」とされ、予防的に緩和策が継続されている。
- ML R&D：個別のコーディングタスクは可能だが、人間の介入なしにエンドツーエンドの研究ワークフローへ連鎖させる独立性を欠く（CCLアラート閾値未到達）。テスト環境の認識は可能だが、テスト制限の回避は不可（TCL未到達）。
- 出荷時緩和策：CBRNおよびサイバー攻撃の悪用防止のための更新されたセーフガードを搭載。児童安全評価は所定の閾値を満たすとされる。

- 留保：「Gemini 3.7 Frontier Safety Framework Report は近日公開予定」とされており、モデルカード時点で完全な FSF レポートは未公開である。

8. 第三者評価とコミュニティの反応

- Artificial Analysis は速度・価格性能比を高く評価し、Intelligence 対 Time per Task のパレートフロンティア上にあるとしている^{6,11}。
- Logan Kilpatrick (Google AI Studio 製品責任者) は「約 3 週間での強い知能向上」「実務でより使いやすい」と SNS で発信している。
- Hacker News に 3.7 Flash のスレッドが立っているが、本格的な実測評価は流動的である。前世代 Flash では容量・スロットリングへの不満や、エージェントの実運用での手離れの悪さを指摘する声もあった^{16,17}。
- 独立系レビューの多くは「認証情報がなく実機テストは未実施」と明記した launch 分析であり、発売直後のため統制された独立ベイクオフは限定的である¹⁷。

9. 日本語報道と日本市場

- ITmedia AI+ 「Google、『Gemini 3.7 Flash』公開 年内は半額の導入価格」（2026 年 8 月 14 日）、ITmedia PC USER、マイナビニュース等が報道している⁵。
- 日本語版公式ブログ (blog.google/intl/ja-jp) が 8 月 14 日に公開された。実務者による早期の解説記事も同日中に出ている²⁰。
- 提供状況：日本の開発者・企業は AI Studio/Gemini API、Vertex AI/Gemini Enterprise、Android Studio、Antigravity 経由で利用可能である。個人向け Spark は欧州経済領域・英国・スイス等を除く地域で提供され、日本は提供対象に含まれる¹。

10. 知財・実務の観点からの分析

10.1 コーディング・エージェント能力向上の知財実務インパクト

特許調査・IP ランドスケープの観点では、100 万トークンの長文脈に加えて高速・低価格であることが、大量特許文献の母集合整理、タグ付け、要約、パテントマップの前処理といった「反復・大量」工程のコスト効率を大きく高める。GDM-MRCR v2（長文脈検索 97.0%）や GDP.pdf（複雑文書

34.0%) の改善は、明細書・審査経過・技術文献の読解精度向上に資する³。ただし Flash は「価値テ
ィア」であり、最終的な新規性・進歩性判断や微妙な技術解釈については、上位モデルと人間による
検証が引き続き必要である。日本の知財実務界でも 2026 年に入り、生成 AI を前提とした特許調査・
明細書・IP ランドスケープの再設計をテーマとするセミナーやツールが相次いでおり^{21,22}、本モデルは
その「安価な実行エンジン」候補となる。

明細書ドラフト・中間応答の観点では、コード生成・構造化出力とツール呼び出しの改善が、クレ
ーム構造の下書きや拒絶理由対応の定型部分の自動化に寄与する。もっとも、幻覚 (hallucination) はモ
デルカードも認める既知の限界であり³、法的要件を満たす最終稿については人間 (弁理士) の実質的
関与が必須である。

10.2 AI エージェントの自律性向上に伴う知財論点

AI 生成発明の発明者性について、USPTO は 2025 年 11 月 28 日に Federal Register (Vol.90, No.227,
Docket No. PTO-P-2025-0014) で「Revised Inventorship Guidance for AI-Assisted Inventions」を公
表し、2024 年 2 月 13 日版を全面撤回した。従来の Pannu 要素の適用を撤回し、伝統的な conception
(着想) 中心の発明者性へ回帰している。すなわち「AI は人間発明者が使う道具」であり、非自然人
を発明者とする出願は 35 U.S.C. § 101/§ 115 により拒絶対象となる²³。著作権面では、米連邦最高
裁が 2026 年 3 月 2 日に Thaler v. Perlmutter (Case No. 25-449) で上告 (certiorari) を棄却し、DC 巡
回区の判決 (著作権法は人間の著作者を要求する) が維持された。人間の創作的寄与のない純 AI 生成
物は著作権登録不可という原則が確定したことになる。日本でも DABUS 事件を踏まえ、「AI を発明
者とするの特許は認められない／人が発明したと言えれば取得可能」という理解が実務通説となっ
ている²⁴。エージェントの自律性が高まるほど、「人間の着想」の立証・記録の重要性が増す点は強調し
ておきたい。

AI 生成コードの著作権・ライセンス汚染については、コード生成能力の向上が、コピーレフト等の
OSS ライセンス条項を含むコード片の混入すなわち「ライセンス汚染」リスクを増幅する。日本では、
SCA (ソフトウェア構成分析) ツールによる監査、オプトアウト環境での開発、証跡保存が実務的対
策として推奨されている²⁵。純 AI 生成コードは人間の創作的寄与を欠けば著作権保護が及ばない可
能性がある一方、既存コードに類似すれば侵害リスクが残るという二重の不確実性がある^{25,26}。

学習データと著作権について、Google は 3.7 の訓練データを新規に開示せず、3.6 のモデルカードを参
照させている³。日本は著作権法 30 条の 4 により学習が原則許容されるが、生成・利用段階では通常
の著作権ルールが適用される²⁶。内閣府「AI 時代の知的財産権検討会」は 2025 年 12 月 26 日に「生成
AI の適切な利活用等に向けた知的財産の保護及び透明性に関するプリンシプル・コード (仮称)

（案）」を公表し、2026 年 1 月 26 日までパブリックコメントを実施した。透明性開示・権利者開示・利用者開示の 3 原則を柱とし、「コンプライ・オア・エクスプレイン」方式を採る。また総務省・経済産業省「AI 事業者ガイドライン（第 1.2 版）」は 2026 年 3 月 31 日に公表され、AI エージェント／フィジカル AI の定義新設と「人間の判断介在の仕組み」を要求している。

10.3 「野良 AI エージェント」ガバナンスとの接続

Spark のように 24 時間自律稼働し、ユーザー権限で認証して Workspace 等にアクセスするエージェントは、シャドーAI／NHI（Non-Human Identity）ガバナンスの論点に直結する。人間アカウントで認証されつつ非人間主体として SaaS・データにアクセスするため、従来の人間 ID／マシン ID という二分法では管理が不十分となる^{27,28}。

日本の実務論点としては、野良 AI を「無許可の生成 AI 利用」と「野良 AI エージェント」の 2 軸で捉え、2026 年は後者が新たな論点となっているとの整理がある。対策は「一律禁止」ではなく、棚卸し→分類→統制基盤→承認プロセスの高速化という順序が推奨される^{28,29}。IBM『Cost of a Data Breach Report 2025』（Ponemon Institute 実施、16 カ国・17 業界の 600 組織を調査）によれば、シャドーAI が高水準の組織は平均で約 67 万ドルの追加侵害コストを負い、シャドーAI 関連侵害では顧客 PII 漏洩率が 65%（全体平均 53%）、全侵害の 20%がシャドーAI 起因、63%が AI ガバナンス方針を欠くと報告されている²⁷。

知財部門への含意として、安価・高速なエージェントの普及は現場での「無申請利用」を加速させやすく、機密発明情報・未公開明細書・営業秘密の AI 入力による漏洩および新規性喪失のリスク管理（アクセス管理・監査ログ・人間確認の 3 軸）が急務となる。

10.4 競合比較とベンダー選定への示唆

位置づけとしては、3.7 Flash は「フロンティア最上位ではないが、速度・価格で突出した実務用エンジン」である。最難関の推論・SWE では依然として GPT-5.6 Terra や Claude 系上位が優勢である一方、エージェント知識労働（AutomationBench、AA-AnalystAgent）や長文脈・マルチモーダルでは首位級に位置する^{3,6}。

調達判断としては、第一に、大量・反復・コスト敏感な知財ワークフロー（一次スクリーニング、要約、母集合整理）では 3.7 Flash が有力である。第二に、最終判断・高難度推論には上位モデルないし競合上位機と人間検証を併用する「モデルスタック」構成が合理的である。第三に、3 週間サイクルの高頻度更新⁶は「Flash ラインに賭ければ継続的に安く・強くなる」という戦略的含意を持つ一方、モデル挙動の頻繁な変化がバリデーション・再現性確保のコストを生む点に留意すべきである。

ロックインについては、Vertex AI/Gemini Enterprise 前提の統合はモデル名変更のみで切替が容易だが、Antigravity・Spark・Workspace 連携に深く依存するとベンダーロックインが強まる。マルチベンダー評価ハーネスの維持を推奨する。

11. 実務推奨

- (1) 即時 (PoC 段階) : 3.7 Flash を「一次処理エンジン」として、特許調査の母集合整理・要約・タグ付け、IP ランドスケープの前処理で PoC を実施する。ベンチマークではなく自社の実データ (拒絶対応・先行文献評価等) で統制された評価ハーネスを組み、3.6 Flash および競合 Flash 級と A/B 比較する。判断閾値は幻覚率・引用正確性・人間手戻り時間に置く。
- (2) 短期 (統制設計) : Spark および自律エージェントの社内利用は「棚卸し→分類→統制基盤→承認高速化」で設計する。機密発明・未公開明細書の AI 入力を禁止ないしサンドボックス化し、アクセス管理・監査ログ・人間確認 (human-in-the-loop) の 3 軸を必須化する。AI 生成コードには SCA ツールでライセンス汚染を監査する。
- (3) 中期 (権利・契約) : AI 支援発明について「人間の着想 (conception)」を示す発明記録 (着想日・寄与内容) の運用を標準化する。ベンダー契約で AI 利用条件・学習利用オプトアウト・生成物の権利帰属を明確化する。内閣府プリンシプル・コード確定版と AI 事業者ガイドライン第 1.2 版に準拠した社内規程を整備する。
- (4) 判断を変えるトリガー : (a) Gemini 3.5 Pro (上位機) の公開により高難度タスクの内製比率を見直す。(b) 完全な Frontier Safety Framework Report の公開により CBRN/サイバーの残存リスク評価を再確認する。(c) 2027 年 1 月の標準価格 (2 倍) への復帰によりコスト前提を再計算する。(d) 統一ハーネスによる独立ベイクオフの結果公表により、自己申告ベンチ依存を是正する。

12. 留保事項

- 競合ベンチ値の性質 : Google モデルカードの競合スコアは各社自己申告値の引用であり、統一条件の第三者ベイクオフではない³。GPT-5.6 Terra、Claude Sonnet 5、Muse Spark 1.2 等の競合モデル名は本調査時点のスナップショットであり、第三者アグリゲータの記載には表記揺れ・信頼性のばらつきがあるため、本文では公式値および Artificial Analysis 値を優先した。
- 未検証・裏取りが限定的な事項 : Gemini 3.7 Flash Frontier Safety Framework Report の完全版はモデルカード時点で未公開である³。X (旧 Twitter) 上の投稿^{11,12} はスナップショットとして参照したが、一次はモデルカード・公式ブログを優先した。Hacker News の 3.7 スレッドは発売直後で実

測評価が流動的である。

- 第 10.2 節および第 10.3 節で言及した USPTO 改訂ガイダンス (Federal Register Vol.90, No.227) 、Thaler v. Perlmutter 上告棄却 (Case No. 25-449) 、内閣府プリンシプル・コード (仮称) (案) 、AI 事業者ガイドライン第 1.2 版、IBM『Cost of a Data Breach Report 2025』については、本調査では日本語の解説記事^{23,24,27}を通じて確認したものであり、各一次資料の URL は未検証である。引用にあたっては官報・原典の直接確認を推奨する。
- 法解釈の留保：AI 生成発明の発明者性および AI 生成物の著作権は各国で判例・ガイドラインが急速に変動しており、本レポートの記述は 2026 年 8 月時点のスナップショットである。個別案件については弁理士・弁護士の判断を要する。
- モデル名の混同リスク：提示情報は正確であったが、Gemini は「3 Flash／3.5 Flash／3.6 Flash／3.7 Flash」と近接名称が多く、また上位の Pro 系と混同されやすい。API モデル文字列 gemini-3.7-flash と GA 日 (2026 年 8 月 13 日) で一意に特定するのが確実である²。

参考文献

- [1] Google, "Introducing Gemini 3.7 Flash" (Tulsee Doshi) , The Keyword, 2026 年 8 月 13 日
<https://blog.google/innovation-and-ai/models-and-research/gemini-models/introducing-gemini-3-7-flash/>
- [2] Google AI for Developers, "Release notes | Gemini API" (2026 年 8 月 13 日項)
<https://ai.google.dev/gemini-api/docs/changelog>
- [3] Google DeepMind, "Gemini 3.7 Flash - Model Card" <https://deepmind.google/models/model-cards/gemini-3-7-flash/>
- [4] Google AI for Developers, "What's new in Gemini 3.7 Flash" <https://ai.google.dev/gemini-api/docs/latest-model>
- [5] ITmedia PC USER 「Google がコーディング性能が向上した新 AI モデル『Gemini 3.7 Flash』を公開 2026 年内は API を従来の半額で利用可能」 2026 年 8 月 14 日 (Infoseek ニュース転載)
https://news.infoseek.co.jp/article/itmedia_pcuser_20260814067/
- [6] Artificial Analysis, "Gemini 3.7 Flash: On the Intelligence vs. Time per Task Pareto frontier"
<https://artificialanalysis.ai/articles/gemini-3-7-time-frontier>
- [7] Google Cloud, "Agent Platform Pricing" <https://cloud.google.com/gemini-enterprise-agent-platform/generative-ai/pricing>
- [8] Axios, "Google's Gemini 3.7 Flash arrives before Gemini 3.5 Pro", 2026 年 8 月 13 日
<https://www.axios.com/2026/08/13/google-gemini-37-flash>
- [9] Google DeepMind, "Gemini 3.7 Flash Model Evaluation" (PDF) https://storage.googleapis.com/deepmind-media/gemini/gemini_3-7_flash_model_evaluation.pdf

- [10] Artificial Analysis, "Gemini 3.7 Flash (high) — Intelligence, Performance & Price Analysis"
<https://artificialanalysis.ai/models/gemini-3-7-flash>
- [11] Artificial Analysis (@ArtificialAnlys) X 投稿, 2026 年 8 月 13 日
<https://x.com/ArtificialAnlys/status/2087975627391717461>
- [12] @kimmonismus (Chubby) X 投稿, 2026 年 8 月 13 日
<https://x.com/kimmonismus/status/2087953482493923477>
- [13] OfficeChai, "Google Releases Gemini 3.7 Flash, Competes With GPT 5.6 Terra & Muse Spark 1.2 On Benchmarks" <https://officechai.com/ai/gemini-3-7-flash-benchmarks/>
- [14] MarkTechPost, "Google AI Just Released Gemini 3.7 Flash: A Coding and Agent Model at \$0.75/1M Input Tokens", 2026 年 8 月 13 日 <https://www.marktechpost.com/2026/08/13/google-ai-just-released-gemini-3-7-flash/>
- [15] Tech Times, "Google Launches Gemini 3.7 Flash: Coding Gains at Half-Price Through Year-End", 2026 年 8 月 13 日 <https://www.techtimes.com/articles/324366/20260813/google-launches-gemini-37-flash-coding-gains-half-price-through-year-end.htm>
- [16] Build Fast with AI, "Gemini 3.7 Flash Review: Benchmarks, Price & the Catch (2026)"
<https://www.buildfastwithai.com/blogs/gemini-3-7-flash-review>
- [17] Kingy AI, "Gemini 3.7 Flash Review: A Serious Coding Upgrade at a Startling Price"
<https://kingy.ai/ai/gemini-3-7-flash-review-benchmarks-pricing/>
- [18] NxCode, "Gemini 3.7 Flash Makes the Cheap Model the Agent Workhorse"
<https://www.nxcode.io/resources/news/gemini-3-7-flash-agent-coding-price-2026>
- [19] Google, "Introducing Gemini 3 Flash: Benchmarks, global availability" <https://blog.google/products-and-platforms/products/gemini/gemini-3-flash/>
- [20] 森本泰仁「また急に Gemini 3.7 Flash がリリース！いち早く概要・特長をキャッチアップ」note, 2026 年 8 月 <https://note.com/yasuhitoo/n/n1892f0957195>
- [21] サイエンス&テクノロジー株式会社「〈生成 AI 時代の知財実務を再設計〉特許調査・明細書・IP ランドスケープの実践体系」セミナー案内 https://www.atengineer.com/pr/science_t/20260306013.html
- [22] パテント・インテグレーション株式会社「生成 AI を活用した明細書作成支援機能をリリース～人間主体の特許実務を前提に、品質と効率の両立を支援～」PR TIMES
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000020.000086119.html>
- [23] 河野英仁（河野特許事務所）「改訂版 AI 支援発明に関する発明者地位ガイダンスの解説」2026 年 2 月 10 日（PDF） <https://knpt.com/contents/cafc/2026.02.10-2.pdf>
- [24] 開成国際特許事務所「ChatGPT や生成 AI を使って発明したら特許は取れるの？ DABUS 事件から見る、AI 時代の発明者の考え方」 <https://kai-sei.or.jp/ai-invention-patent/>
- [25] エンジニアスタイル「AI 生成コードの著作権リスク：納品後に訴えられないための『法務リテラシー』」
<https://engineer-style.jp/articles/12822>
- [26] REIMAGINES「生成 AI と著作権の落とし穴 | 知らなかったでは済まないリスクと安全な使い方【2026 年版】」 <https://www.reimagines.jp/generative-ai-copyright-risk/>

- [27] クラウドネイティブ「シャドーAI とは？最新調査と対策【2026 年 5 月】」 CloudNative BLOGs
<https://blog.cloudnative.co.jp/articles/shadow-ai-zero-trust-countermeasures-2026/>
- [28] AI 総合研究所「野良 AI とは？シャドーAI との違いや棚卸し手順、統制フレームワークを解説」
<https://www.ai-souken.com/article/what-is-rogue-ai>
- [29] JAPAN AI ラボ「野良 AI とは？企業が直面するリスクと効果的な対策を解説」 <https://japan-ai.co.jp/media/7846/>